

令和5年産麦作情報（第4号）

1. 気象の概要（2月15日～3月5日まで）

- ◆平均気温…平年と比べて高い（平年差 +0.6℃）
- ◆降水量は…平年と比べて少ない（平年比 69%）
- ◆日照時間…平年と比べて長い（平年比 116%）

2. 管内麦類の生育状況

▼表1. 農試情報田の調査結果

（調査日：令和5年2月28日）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/21	本年	38.5	628	7.1	48.0	[気象] 2月9日～2月27日まで ◆平均気温…平年より1.4℃高い ◆日照時間…短い(平年比 84%) ◆降水量…やや少ない (平年比 95%) [生育] ◆草丈 11/21 播種「シロガネコムギ」、 12/1 播種「サチホゴールド」で やや高い。12/1 播種「はるか二条」 で平年並み。12/9 播種「サチホゴ ールドン」でやや低い。12/9 播種 「シロガネコムギ」、12/9 播種「はる か二条」で低い。 ◆茎数 「シロガネコムギ」で少ない。 12/9 播種「サチホゴールド」で やや多い。他は多い。 ◆葉齢 全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.0	745	7.5	44.4	
		平年比(差)	104	84	-0.4	+3.6	
	12/9	本年	20.1	593	5.4	51.6	
		平年	23.1	714	6.2	46.3	
		平年比(差)	87	83	-0.8	+5.3	
サチホゴールド	12/1	本年	27.7	1273	6.5	47.1	「シロガネコムギ」で少ない。 12/9 播種「サチホゴールド」で やや多い。他は多い。 ◆葉齢 全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		2ヵ年平均	26.7	1173	7.0	44.2	
	12/9	前年比(差)	104	109	-0.5	+2.9	
		本年	21.5	985	6.1	48.5	
		平年	22.5	935	6.4	44.3	
		平年比(差)	96	105	-0.3	+4.2	
はるか二条	12/1	本年	25.5	1173	6.4	50.6	全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		2ヵ年平均	25.3	979	6.9	48.0	
	12/9	前年比(差)	101	120	-0.5	+2.6	
		本年	19.8	1008	5.9	54.1	
		5ヵ年平均	24.0	861	6.3	47.2	
		平年比(差)	83	117	-0.4	+6.9	

▼表 2. 管内情報田の調査結果

調査日	場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	主稈 葉数 (L)
3月3日	上峰	シロガネコムギ	本年	11月27日	158	36.6	653	7.1
			H24~29平均	11月29日	146	22.9	505	5.9
			6か年比% (差)	(-2)	108	160	129	(+1.2)
3月2日	神埼	はる風ふわり	本年	11月15日	157	36.8	1127	8.2
			R3-4平均	11月18日	119	22.2	719	7.3
			2か年比% (差)	(-3)	132	166	157	(+0.9)
3月3日	鳥栖	はるか二条	本年	11月20日	130	33.6	927	7.6
			R2-4平均	11月22日	107	26.6	697	7.3
			3か年比% (差)	(-2)	121	126	134	(+0.3)

【概況】

- 11月中旬播種の小麦、11月下旬播種の大麦で現在7~8葉期頃となっており、莖立期を迎えている。莖立期（節間長2cm・草丈約25cm）の圃場では、麦踏みをするとうえが折れ、穂数減少や耐倒伏性が低下するため麦踏みをせず、中耕を中心とした管理を行う。
- ※砂地や排水不良などの一部の圃場では、降雨により生育不良や葉の黄化が見られている。晴天が続き、圃場が乾いた時に排水性の改善のため中耕を行う。

3. 今後の管理

◆穂肥（～3月上旬頃）

- 莖立ち期（草丈25cm程度）までに施用する。
- 追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れが有効である。土が湿り、土塊が大きい場合は麦が埋まる可能性があるため、土壌が乾燥した状態で行う。播種量が多く苗立ち数が多い圃場では土量を多めにし、過剰分げつを抑制する。
- 散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1~2割程度増やす。
- 降水量の多少により肥料成分の流亡量は変動する。本年麦作期間において、降水量は平年よりやや少ないため（表3参照）、流亡は少ないと考えられる。穂肥の施用量は基準量とする。

▼表 3. 本年麦作における降水量積算(mm)

期間	降水量積算(mm)		平年比 (%)
	平年値	本年	
11/15~2/28	231.3	194	83.9
2/1~2/28	71.2	62.5	88

- ビール大麦「サチホゴールデン」については、品質基準（粗タンパク含量：10.0～11.0%）を満たすため、下記表に基づき穂肥施用を行う。なお、莖立期を過ぎた圃場では、倒伏の可能性を鑑み6～7割の施用量に抑える。

▼表4. サチホゴールデンの穂肥診断基準

葉色 (SPAD 値)	穂肥 (kg/10a)			
	BB602 の場合		硫安の場合	
	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
45 以下	15	10	11	7
46 以上	10	施用しない	8	施用しない

◆穂揃期追肥（実肥）（4月上旬頃～）

- 現時点において小麦の出穂期は3月下旬～4月上旬頃と予想される。（別添①小麦の出穂期予測を参照）
- 穂揃期追肥は、出穂期から1週間以内の施用が効果的である。

～穂揃期追肥を適期・適量実施することで目標タンパク値を目指しましょう～
特に、パン用小麦（「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」）では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。

▼表5. 穂揃期追肥の施肥基準目安

品種 前作	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
ミナミノカオリ	20	20	10	10
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

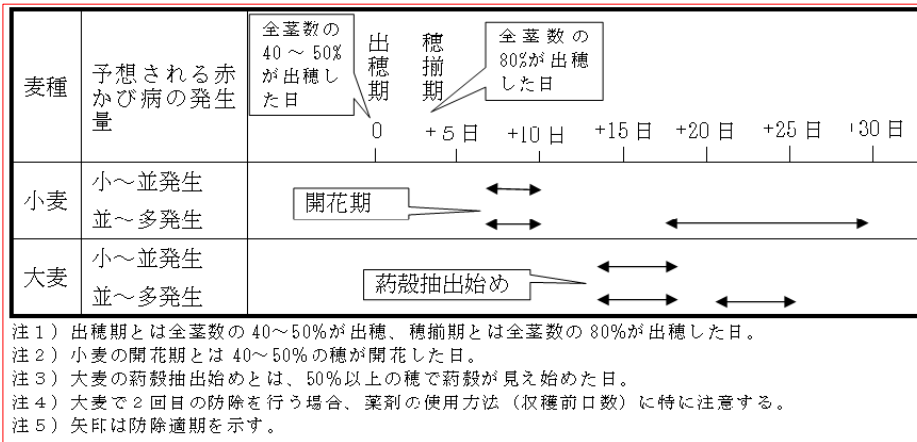
◆カモ対策に係る注意点

- 今年度はカモの飛来数が多く、カモ害の対策として「のぼり」「防鳥テープ」を設置し対策を行っている圃場が多くみられる。
- 農業用ビニールや防鳥テープなどの飛散により、鉄道の運行に影響が出る事例が発生しているため、JR沿線で上記の対策圃場においては、設置期間中はしっかりビニールを固定し、撤去の際は飛散させないように回収するなど注意する。

◆病害虫防除

●赤かび病防除

- 赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- 赤かび病防除時期については防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。
（参照：別添①麦の出穂期予測）



大麦の薬殻抽出期



【大麦防除時期】

- 薬殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
- 多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）。
※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。
- トップジンM水和剤を大麦等で使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

【小麦防除時期】

- 開花最盛期頃（出穂の約7～10日後頃）に防除。
- 多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）
※「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」については2回防除をおこなう。

●網斑病防除（大麦のみ）

- 一部の圃場で2月に入り、網斑病の発生が確認されている。今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想される。
- 登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除時期にチルト乳剤で防除する。
（防除適期は穂揃い期まで、チルト乳剤は使用回数1回に留意）
- 現在の網斑病発生状況については、別添②網斑病定期調査（農業技術防除センター）を参照。



◆排水対策

- 本年は、播種～現在まで、積算の降水量は平年よりやや少ないものの、定期的に降雨が見られており一部の圃場では湿害により下葉の黄化が見られる。
また、近年は局所的な雨が増えていることから、今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように整えておく。
- 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

◆雑草対策

- 1年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部で見られる。（下記表参照）
- 除草剤での防除を検討する場合は、麦の生育によってはすでに使用できない薬剤もあるので、処理時期に注意して早めの散布を行う。



ミチヤナギ



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロ



ノミノフスマ



イヌタデ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ

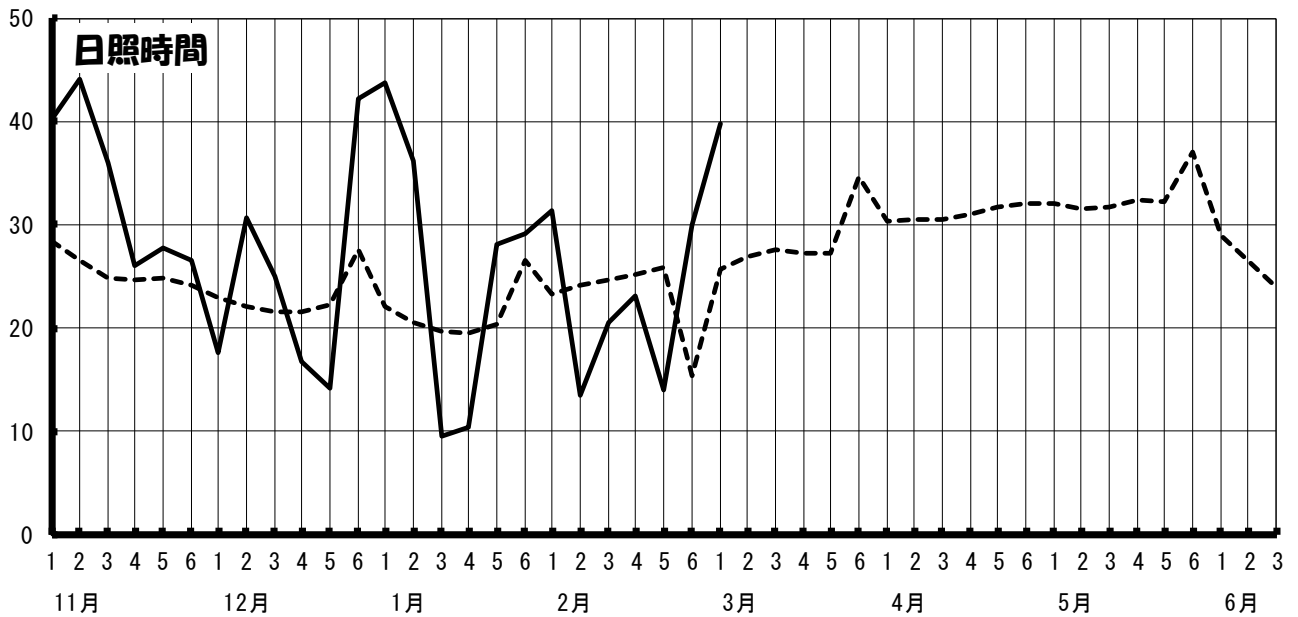
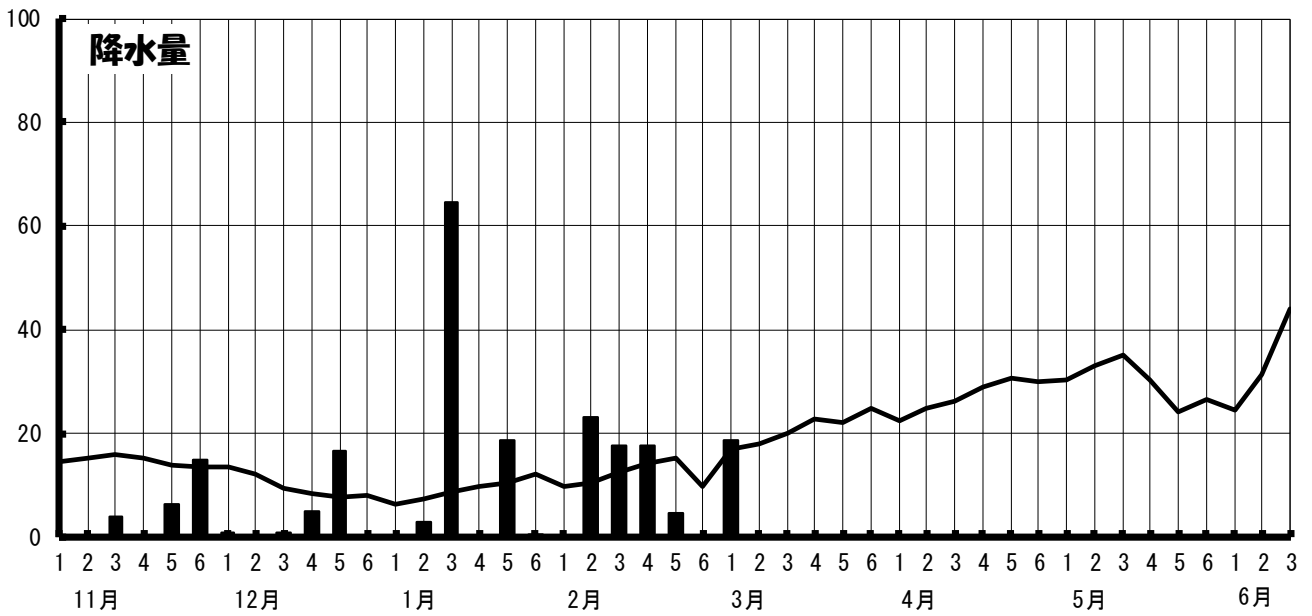
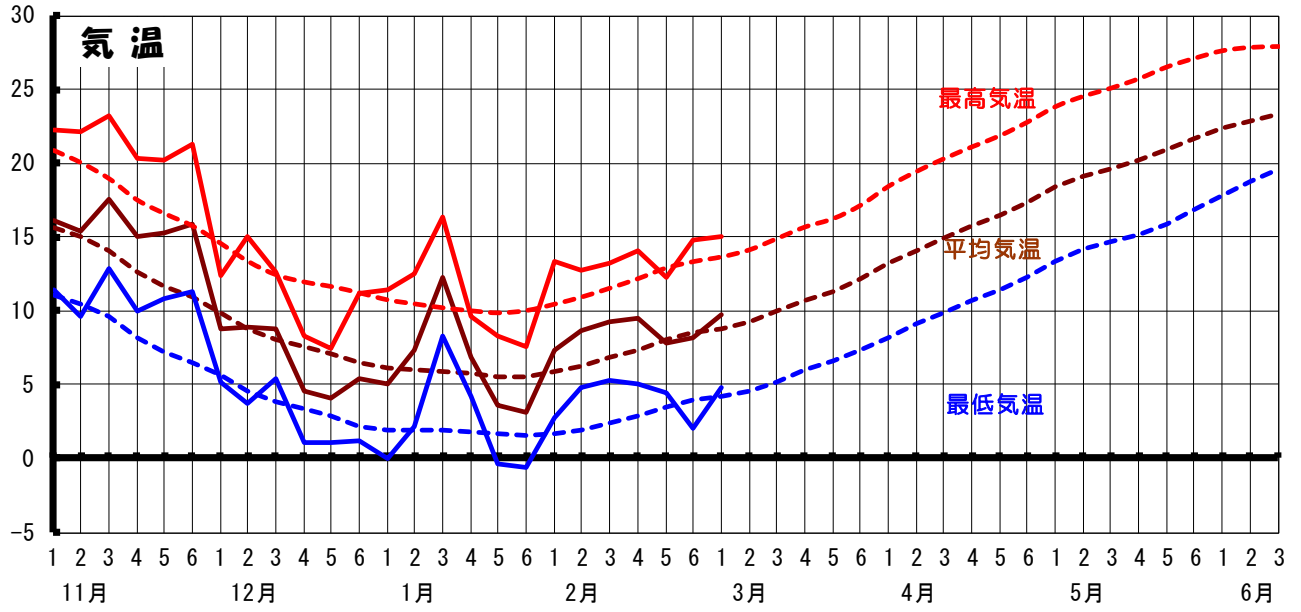
生育期除草剤使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10aあたり			
ハサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～ 200ml	70～ 100L	小麦：収穫 45 日前まで ※大麦は散布適期外（ 雑草 3～6 葉期	1 回 以内
エコパート フロアブル 注1)	1 年生広葉雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	50～ 100ml	70～ 100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4 葉期) (ヤエムグラ2～6 節期) ただし収穫 45 日前まで、 ヤエムグラへの効果が期待される。 ただし節間伸長開始期以降は著しい 薬害が発生する為注意が必要。	2 回 以内
ハーモニー 75DF 水和剤 注2)	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 一年生広葉雑草 ・ <u>ミチヤナギ</u> ・ <u>タデ類</u> ・ <u>キツネノボタン</u> ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ	5～ 10g	100L	小麦：播種後～穂ばらみ期まで 麦収穫 45 日前まで ※大麦は散布適期外 スズメノテッポウ：5 葉期まで カズノコグサ：1～3 葉期まで (※カズノコグサは薬量 10g/10a)	1 回 以内
留意点	<p>注1) エコパートフロアブル使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ヤエムグラに効果は高いが適用時期を過ぎての使用は著しい薬害となるため、<u>節間伸長開始期</u>（節間長 5 mm）となっている圃場では散布はしないように留意する。 <p>注2) ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 薬害が生じ易いので周辺作物（特にタマネギ）に注意 使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない 双メカ死、カラスノエンドウには効果が弱い（抑制するが枯死しない） 				

R5年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業振興センター



グラフ中の点線は平年値